



森のちやれんがニュース 2016夏

北海道博物館
HOKKAIDO MUSEUM

Newsletter vol.4



ひばりが丘明星幼稚園のみなさん

特別展「ジオパークへ行こう！」開幕

7月9日に、特別展「ジオパークへ行こう！」(9月25日まで)が開幕し、館内は連日、年齢の低い方を含む家族連れで賑わっています。博物館に足を踏み入れるとまず目に入るのは、巨大なマンモスゾウ。この展示会のために、北広島市内の小・中学生と市民の方の協力を得て制作した、実物大模型です。玄関から駆け寄る人、写真撮影をする人に囲まれ、今やすっかり館の顔になっています。

北海道博物館は4月に開館1周年を迎えました。新たな博物館の開設にあたり、館長以下職員は、道民と共に、

活気溢れる博物館をつくることを目指し、開館準備から今日に至るまで、年齢の低い方から高い方までが、さまざまな仕方で「参加」できる仕掛けを、「総合展示室」や「はっけん広場」に用意し、また、各種行事を開催してきました。今回の特別展は、なかでも特に、道民に協力・参加いただく機会を、数多く設けています。

1周年を経て「新装オープン」の謳い文句に頼れなくなるこれからこそ、博物館の真価が問われます。来館者の声に耳を澄まし、博物館のより良いあり方を、一層模索していきます。



CONTENTS

- ② 館長挨拶
「開館1周年を迎えて」石森 秀三
- ③ 特別展企画者インタビュー
「ジオパークと博物館」栗原 憲一
- ④ 研究活動紹介
「生活文化資料の活用に向けて」舟山 直治
- ⑥ 博物館スタッフインタビュー
副館長 中村 亘 / カフェスタッフ 木村 彩華
- ⑦ アイヌ民族文化研究センターだより
- ⑧ 行事のおしらせ／活動ダイアリー

館長挨拶

開館1周年を迎えて



館長 石森 秀三

1945年生まれ。兵庫県神戸市出身。

国立民族学博物館教授・研究部長、北海道大学観光学高等研究センター長、同大学院観光創造専攻教授を経て、2013年に北海道開拓記念館長に就任。2015年北海道博物館開館に伴い初代館長に就任。専門は民族学、博物館学、観光学。

北海道博物館（愛称：森のちゃれんが）は「古くて新しい博物館」です。この博物館は、北海道開拓記念館（1971年開館）と道立アイヌ民族文化研究センター（1994年開所）という、2つの道立施設を統合して、2015年4月に新たに開設されました。

昨年4月18日にオープンした総合展示のコンセプトは「北東アジアのなかの北海道」と「自然と人とのかかわり」で、北海道の自然・歴史・文化を物語る5つのテーマにもとづく展示が展開されています。昨年オープンしてから1年間の総合展示入館者数は151,594人に達しました。旧開拓記念館末期の常設展示入館者数は年間に約5万人で

したので、北海道博物館になってから3倍増を達成したことになります。

総合展示について、嬉しいニュースがあります。日本における展示分野で最も権威のある日本展示学会は、今年6月に北海道博物館の総合展示に対しまして、日本展示学会賞「作品賞」を授与して下さいました。作品賞は3年毎の授賞で、私どもは道内で初受賞となりました。総合展示に関わっていた数多くの関係者の皆様方に厚くお礼申し上げます。

昨年度は特別展として「夷酋列像展」を開催しましたが、5万人を超える数多くの皆様方にご観覧いただけました。今年度は7月9日から特別展「ジ

オパークへ行こう！」を開催しています。道内の5つの認定ジオパーク（洞爺湖有珠山ジオパーク、アポイ岳ジオパーク、白滝ジオパーク、三笠ジオパーク、とかち鹿追ジオパーク）と連携して、ジオパーク列車に乗って太古の北海道や地球の内部をめぐりながら、北海道にある5つのジオパークを訪れる物語を展開しています。また、北広島マンモス大復活プロジェクトで作成された実物大のマンモスゾウ模型も展示しています。特別展をとおして、ぜひとも地球の不思議を探す旅を楽しんで下さい。特別展の期間中には数多くのイベントを開催しますので、ご家族揃ってお楽しみ下さい。

日本展示学会賞「作品賞」を受賞しました

北海道博物館の総合展示が、日本展示学会の「作品賞」を受賞しました。この賞は、日本展示学会が「展示の作品であって、社会的・文化的見地からもぎわめて高い水準が認められ、芸術・技術の総合的発展に寄与する、優れた作品」を選出し顕彰するもので、2013年から2015年の期間を対象に全国から12点が選出されました。

6月5日に京都造形芸術大学で授賞式が行われ、当館の堀繁久学芸主幹が代表で参加しました。



左：授賞式での集合写真 前列左から三番目が堀学芸主幹。隣はトーハクくん。
右：展示学会賞作品賞記念トロフィー

特別展「ジオパークへ行こう！」企画者インタビュー

ジオパークと博物館 ―地域の価値を伝える―

7月9日に開幕した特別展「ジオパークへ行こう！」は、連日多くの方にお越しいただいています。展示プロジェクトチームチーフの栗原学芸員に、今回の展示にかける思いを聞きました。――なぜ、今、「ジオパーク」をとりあげるのでしょうか？

昨年の9月にアポイ岳ジオパークが世界ジオパークに認定され、さらに11月には、ユネスコが、それまで支援事業にとどめていたジオパークの活動を正式な事業にすることを発表しました。今年の夏は、そんなジオパークをめぐる大きな動きを経て、はじめてのオンシーズンなんです。

――「ジオパーク(大地の公園)」を「展示」するとは、どういうことでしょうか？

ジオパークとは、現場そのもの。地面の下にある化石や地層、地面の上にある植物や動物、そこに暮らす人々や地域の活動、あらゆるものを含みます。現場では、膨大な情報が得られる代わりに、見る人の能力や、ガイドする人の能力が問われます。一方で、博物館での展示は、情報量をあえて少なくします。言ってみればこの特別展は、道内5つのジオパーク(洞爺湖有珠山ジオパーク、アポイ岳ジオパーク、白滝ジオパーク、三笠ジオパーク、とかち鹿追ジオパーク)で見ることができるもの、知ることができることを凝縮した、ダイジェスト版。この特別展を見て、楽しみ方を知ってから、各ジオパークへと足を運んで欲しいです。つまり特別展は、各ジオパークへの入り口です。ジオパークも特別展も、勉強しに行くぞ、というのではなく、遊びに行く感覚で見に来ていただきたいです。

――栗原学芸員は、一昨年まで三笠ジオパークのある三笠市の市立博物館に勤務されていました。そこでのご経験が展示に活かされるのでしょうか？

三笠にいたときに、全国のジオパークに関わる人たちとのつながりができました。そのときからご縁のある方々



学芸員 栗原 憲一

1979年生まれ。東京都出身。三笠市立博物館学芸員を経て、2015年より北海道博物館学芸員。専門は古生物学、博物館学。理学博士。写真は来館者と協力してつくった展示パネルと。

に今回もご協力いただいています。自分の専門はアンモナイト。三笠では、自分の研究の価値を、博物館や三笠という地域の価値にできるように務めました。大学まで過ごした東京から三笠に赴任した時は、田舎に来たなあと思うと同時に、これは東京ではできないなあ、すごいなあと思うことがありました。アンモナイトを玄関に置いているのがごく普通というのはすごいこと。でも、三笠の人には当たり前のことかもしれない。「ジオパーク」の制度にも似たところがあって、「ジオパーク」は地域の人たちにとっては、もともとある、当たり前のもの。ただ、「ジオパーク」と名指されることで、それが日本や世界から見たときに、どんな

価値があるのか、広い目で見たとときの位置を知るための手がかりになります。「ジオパーク」は、地域の人々が、地域の資源や歴史の価値を知り、それを守ると同時に、活用することを提唱しています。自身の研究もまた、地域の人々が地域の価値を見直すことに役立ててほしいと考えて、取り組んでいました。北海道博物館は、そうした個々に活動する各地域の取り組みを、つなげる、という役割を担っていると考えます。今度の特別展は、道内5か所のジオパークが連携して一つのことに取り組むはじめての試みです。この展示を、道内のジオパークが一緒になって発展していくための足がかりにしてほしいと考えています。



特別展「ジオパークへ行こう！」会場風景 動く恐竜「マイアサウラ」に釘付け。

研究活動紹介

生活文化資料の活用に向けて

北海道博物館が2015年4月に開館してからこのかた、私は現在の役職により研究部に属さないまま1年が過ぎました。ただ、生活文化研究グループの学芸主幹から、生活文化にかかわる、総合展示室や特別展示室のシナリオを書くことを許されて、影のうすい学芸員として、いくつかの展示にもかかわっています。大きく分けると、総合展示室第3テーマ「北海道らしさの秘密」コーナーの終わりにある「クローズアップ展示⑤」と、特別展示室での企画テーマ展です。

総合展示室内で資料の入れ替えをする「クローズアップ展示⑤」では、2012年度に厚沢部町から収集した早池峰神楽系の神楽道具一式を紹介した「岩手県から北海道へ渡った神楽」展（写真下左）を皮切りに、2016年3月15日から7月29日まで、開拓記念館時代の収蔵陳列室にあったコレクションを紹介した「北海道の〈やきもの〉」展を開催しています。そして、ただ今、7月下旬の開催に向けて、昨年度に収集した歴史建造物模型を紹介する「模型でめぐる北海道の建物」展のメンバーの一人として準備を進めているところです。

また、昨年度、北海道博物館の特別展示室では、4回の企画テーマ展が開催されましたが、その内の三つの展示会に関わりました。

学芸部長 舟山 直治

1958年生まれ。旭川市出身。
1985年より北海道開拓記念館学芸員。2015年北海道博物館開館に伴い現職に。
専門は日本民俗学。



一つ目は、北海道博物館として第1回目の企画テーマ展となった「学芸員おすすめの一点」です。これは当館の学芸員と研究職員がそれぞれの一点を紹介するという展示会でした。私は幅3メートルほどの展示ケース1台に木馬と三輪車を展示しました（写真下右）、まわりから「二点でしょ」とすぐにツッコミを入れられましたが、遊び道具の王様としてははずせない、そのまま押し通してしまいました。本当は、2点どころか文化櫥も加えたかったのです。でも、3点の展示イメージがわからず、展示をあきらめています。

二つ目は、第2回企画テーマ展「鶴」です（写真次頁上）。展示を企画するプロジェクトチームには入っていませんでしたが、企画を担当するチーフから収蔵庫内の生活用具から鶴文様をひたすら探し回るといって役を仰せつかり、その後の展示までを請け負いました。晴着や漆器などを探せば良いだろうと、ごく軽い気持ちで作業を進めたところ、生活資料だけでも3万点を超えているなかで、鶴文様を選び出すというのは、とても簡単なものではありませんでした。展示でも結構広いスペースを与えられていたにもかかわらず



クローズアップ展示⑤「岩手県から北海道へ渡った神楽」



第1回企画テーマ展「学芸員おすすめの一点」木馬と三輪車



第2回企画テーマ展「鶴」会場風景

ず、暮らしの中には鶴文様が沢山あって、結局一回の展示会では紹介しきれませんでした。これら衣食住の日用品の中にみられる鶴文様については、別の機会に紹介できればと考えています。

三つ目は、昨年度の最後となった第4回企画テーマ展「神様おねがい！」で(写真下左右)、私はプロジェクトチームのチーフとして展示を企画しました。実質的には、生活文化研究グループ、歴史研究グループ、博物館研究グループの三つの研究グループの各1名からなるメンバーと計4名で展示内容をかため、2016年の2月から年度をまたいで4月まで開催しました。展示会

では約700㎡の特別展示室うち6割ほどのスペースを使い、資料点数も300点超の比較的大きなものになりました。そもそもこの展示会は、北海道博物館の前身となる開拓記念館の常設展示室や収蔵陳列室で展示していた資料や、野外博物館の北海道開拓の村の整備のために収集した館蔵資料を活用したいという思いから企画しました。ですから、移住者の祈りのかたちの特徴を、神楽道具、奉納物、御札類、札、日記などで紹介するといった資料構成と展示意図は後付けに近いかもしれません。ただし、近世の松前からつづく伊勢とのむすびつきやその移り変わり、日本海を介した信仰と旅のようす、

神へ願いを伝える儀式や道具といった展示項目のアイディアは、メンバーの4名それぞれが、これまで館蔵資料と向き合ってきた中で導き出した研究成果といえます。

しかし、これらの展示会だけでは館蔵資料を紹介しきれていないのはいうまでもありません。私自身、これまで担当してきた生活文化資料を引き続き再整理し、魅力的な展示企画を立案できるように準備したいと考えております。あわせて民具など有形民俗文化財だけではなく、民俗芸能や職人技術など無形民俗文化財の展示手法や情報の記録保存についても調査研究を継続していきたいと考えています。



左右とも：第4回企画テーマ展「神様おねがい！」会場風景

博物館スタッフインタビュー

カナダ・ロイヤル・アルバータ博物館と共同研究に関する覚書に調印

2016年3月9日、カナダ、アルバータ州エドモントンで、北海道博物館とカナダ・ロイヤル・アルバータ博物館の共同研究に関する覚書が締結されました。現地に赴いた中村亘副館長にお話をうかがいました。

—— 覚書調印の目的はなんですか？

ともに亜北極地域に属し、風土が類似すること、またともに先住民族の文化を研究し展示する施設でもあることなど、二つの施設は共通する環境や課題を持っています。そこで、互いに知識を交換し協力すること、具体的には共同で調査研究を行う約束を交わしてきました。

—— ロイヤル・アルバータ博物館からどんなことを学べるのでしょうか？

ロイヤル・アルバータ博物館は、これまで郊外にあった施設に代わる新しい建物を、街の中心部に建設しているところです。新しい博物館の先住民族

の展示は、先住民の人たちとミーティングし、議論を重ねて構想していくことです。また、旧い博物館はすでに展示の解体がすすんでいます。先住民族の展示だけは、儀礼などで使用する可能性があるため、ぎりぎりまで閉鎖せず、利用できるようにしているそうです。博物館と先住民族との関係のあり方に、参考になる点が多々あると感じました。

—— 博物館とは異なる分野に長く身を置かれていた中村副館長には、博物館の活動はどう映りますか？

研究を介して、研究者同士がつながり、そして博物館同士のつながりができていく。そういうやり方で交流の輪が広がっていくというのが新鮮です。私はこれまで博物館とは縁遠い人生を送ってきましたが、今、博物館の面白さを知り、もったいなかったなと思っています。この博物館のことを多くの方に知っていただき、大いに活用していただきたいと思います。



アイヌ民族文化担当副館長 中村 亘

1952年生まれ。美唄市出身。北海道銀行、道立高校校長を経て、2012年よりアイヌ民族文化研究センター所長。2015年北海道博物館開館に伴い現職に。



当館中村副館長(左)とロイヤル・アルバータ博物館クリス・ロビンソン館長(右)

博物館オリジナルラテアートで一息つきませんか



カフェスタッフ 木村 彩華

1992年生まれ。札幌市出身。札幌駅でのカフェ勤務を経て、2015年の北海道博物館開館と同時に現職に。木村さんの笑顔に癒されにカフェに通うファン多数。ショップ内の「ポップ」は木村さん作。



カフェ・ショップは一般財団法人北海道歴史文化財団が運営しています。販売商品・価格は随時変更します。

北海道博物館には、飲み物や軽食を販売するカフェ、オリジナルグッズや書籍を販売するショップがあります。スタッフの木村さんにお話をうかがいました。

—— おすすめの商品はなんですか？

カフェでは、ドリンク、ドーナツほか、キットカットの三つがセットになった〈煉瓦セット〉(450円)をご用意しています。また、カプチーノ(単品:330円)とカフェラテ(単品:340円)は、5種類からオリジナルラテアートをお選びいただけます。今の季節、アイスクリームもおすすめです。ショップにはオリジナルグッズがいろいろありま



ラテアート北海道(左) マンモス(右)

す。「ナウマンゾウ」を用いたトートバッグや文房具がおすすめです。恐竜のガチャガチャも人気があります。特別展「ジオパークへ行こう!」に合わせた商品も入荷しています。

—— どんな過ごし方ができますか？

見学を終えて帰りのバスを待つ間や駐車場まで歩くちょっとした時間にご利用いただくことが多いです。時間のある方は、テイクアウトして中2階の休憩ラウンジでお過ごしいただくのも、眺めが良くて気持ちがいいですよ。カフェのある玄関ホールは入館料がからないエリア。森林公園散策の休憩など、カフェだけのご利用も歓迎です。



オリジナルグッズ

小川 正人(研究部長)

行事のおしらせ 8月～9月

展示会

北海道博物館第2回特別展
ジオパークへ行こう！

恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探る旅

7月9日(土)～9月25日(日)

特別展示室・有料

一般600円、高・大学生300円、

中学生以下・65歳以上無料



北海道博物館第1回アイヌ文化巡回展

アイヌ語地名を歩く―山田秀三の地名調査資料から―

7月5日(火)～9月4日(日)

オホーツクミュージアムえさし・無料

※ 行事の申し込みについては、『行事あんない2016年度前期』もしくはウェブサイトをご覧ください。

イベント

講演会

大地とともに生きる～ワインにかける想い

8月20日(土) 13:30～15:30

講堂・無料

講師／山崎太地氏(山崎ワイナリー)

定員／先着100名(事前申込、7月21日(木)より受付)

チャレンが子どもクラブ

のこぎりでコースターをつくろう

8月21日(日) 10:30～12:30

講堂・無料

担当／青柳かつら・山際秀紀・小林孝二

定員／20名(事前申込、8月7日(日)まで受付)

チャレンが子どもクラブ

文字であそぼう！ 消しゴムはんこづくり

8月27日(土) 10:30～12:30

講堂・無料

担当／春木晶子・三浦泰之

定員／30名(事前申込、8月13日(土)まで受付)

チャレンが講座

進化の歴史を解き明かそう！

8月28日(日) 13:30～15:30

講堂・無料

担当／表深太・栗原憲一

定員／先着100名(事前申込、7月29日(金)より受付)

チャレンが講座

古文書講座①ジオパークにゆかりの古文書を読む(全2回)

第1回 9月4日(日)、第2回 9月18日(日)

13:30～15:30

担当／三浦泰之

定員／先着100名(事前申込、8月5日(金)より受付)

チャレンが子どもクラブ

じっくりムックリ講座

9月10日(土) 10:30～12:30

講堂・無料

担当／甲地利恵

定員／20名(事前申込、8月27日(土)まで受付)

講演会

ジオパークで見る・学ぶ・食べる

9月11日(日) 13:30～15:30

担当／尾池和夫氏

(京都大学名誉教授/日本ジオパーク委員会委員長)

定員／先着100名(事前申込、8月12日(金)より受付)

チャレンがワークショップ

自然観察会③ 動物のフンをしらべよう

9月24日(土) 10:00～12:00

野幌森林公園内(自然ふれあい交流館集合)・無料

担当／堀繁久・水島末記・表深太、

濱本真琴・扇谷真知子(自然ふれあい交流館)

定員／40名(事前申込、8月25日(木)より受付)

フォーラム

ジオパークへ行こう！

9月25日(日) 13:00～16:00

講堂・無料

担当／道内ジオパーク関係者

定員／先着100名(事前申込、8月26日(金)より受付)

活動ダイアリー 3月～7月

3月2日 博物館協議会第4回評価作業部会会議
3月5日 チャレンがリレー講座「擦文文化の交易と自然の恵み」開催
3月6日 チャレンがワークショップ「古文書に親しもう」開催
3月9日 北海道博物館とロイヤル・アルバータ博物館の共同研究に関する
覚書調印
3月12日 「クマゲラ・フォーラム」開催
3月13日 チャレンが講座「北海道の川下信仰について」開催
3月19日 特別イベント「バックヤードツアー」開催
3月20日 チャレンがワークショップ「古文書に親しもう」開催
3月23日 第2回北海道立総合博物館協議会
3月26日 特別イベント「バックヤードツアー」開催
3月27日 特別イベント「神楽映画会」開催
3月31日 「ビジュアル北海道博物館」発行
4月2日 はっけんイベント「羊毛でふわふわ織物にチャレンジ！」開始
4月10日 第4回企画テーマ展「神様おねがい！」閉幕
4月16日 チャレンがワークショップ「自然観察会① エゾアカガエルのラ
ブコールを聴こう」開催
4月18日 北海道博物館開館1周年
4月19日 ミュージアム展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」配信開始
4月28日 第5回企画テーマ展「アイヌ民族資料を守り伝える力」閉幕
4月29日 ハンズオン「体感！ 海・大地・山の香り」開催
ミュージアムトーク「企画テーマ展みどころ解説」開催
5月3日 特別イベント「特別展『ジオパークへ行こう！』の展示をみん
なでつくろう！」開催(～5日)
ハンズオン「動物の毛皮にさわってみよう」開催
ミュージアムトーク「ドラマ 三等客車」開催
5月4日 ハンズオン「よ～く見てみよう、ふしぎな道具〈マレク〉講座」開催

ミュージアムトーク「北海道の先史文化―旧石器から擦文まで」開催
5月5日 ハンズオン「体感！ リンリン黒電話」開催
ミュージアムトーク「がつつりトーク アイヌ民族の住居 てっ
い解説」開催
5月21日 チャレンがワークショップ「いろいろな鳥笛をつくろう」開催
6月5日 第5回企画テーマ展「アイヌ民族資料を伝える力」閉幕
日本展示学会作品賞受賞
チャレンがワークショップ「デジカメで自然観察！」開催
6月12日 チャレンがワークショップ「縄文土器をつくる①つくる」開催
7月1日 公衆無線LAN(無料Wi-Fi)インターネット接続サービス開始
7月2日 はっけんイベント「岩石マップをつくろう」開始
7月3日 ワークショップ「縄文土器をつくる②焼く」開催
7月5日 アイヌ文化巡回展「アイヌ語地名を歩く」閉幕
(会場：オホーツクミュージアムえさし)
7月6日 マンモスゾウ実物大模型をグランドホールに展示開始
7月8日 第2回特別展「ジオパークへ行こう！」開会式・内覧会
7月9日 第2回特別展「ジオパークへ行こう！」閉幕
チャレンが講座「特別展『ジオパークへ行こう！』みどころ案内」開催
チャレンがワークショップ「石器をつくる」開催
7月16日 特別イベント「北海道ジオパークまつり」開催
7月17日 チャレンが子どもクラブ「アンモナイトを解剖しようA」開催
7月18日 ミュージアムトーク「アイヌの折り紙『カムイノミ』」開催
7月22日 カルチャーナイト2016参加
7月23日 チャレンが講座「アイヌ民族が伝えたふしぎな話」開催
7月24日 チャレンが子どもクラブ「アンモナイトのレプリカをつくろうA」開催
7月30日 チャレンが子どもクラブ「マイナス20℃でシャーベット！？」開催
7月31日 講演会「北海道恐竜研究最前線」開催

人事異動

発令内容〈前職〉：氏名／**新任(4月1日付)** 学芸部道民サービスグループ兼研究部生活文化研究グループ学芸員：尾曲香織／**再任用(4月1日付)** 総務部企画グループ兼研究部博物館研究グループ学芸員：小林孝二、学芸部博物館基盤グループ兼研究部歴史研究グループ学芸員：寺林伸明、学芸部博物館基盤グループ兼研究部博物館研究グループ学芸員：村上孝一、学芸部道民サービスグループ兼研究部アイヌ民族文化研究センター学芸員：出利葉浩司／**内部異動(4月1日付)** 学芸部博物館基盤グループ兼研究部自然研究グループ学芸員〈学芸部道民サービスグループ兼研究部自然研究グループ学芸員〉：表深太、学芸部道民サービスグループ兼研究部歴史研究グループ学芸員〈学芸部博物館基盤グループ兼研究部歴史研究グループ学芸員〉：春木晶子

来館者数

○2016年2月～3月
総合展示室 6,492人 特別展示室 3,954人 はっけん広場 1,884人
○2015年度合計
総合展示室 149,046人 特別展示室 104,441人 はっけん広場 34,561人
○2016年4月～6月
総合展示室 23,185人 特別展示室 10,789人 はっけん広場 5,879人
○累計(2015年4月～2016年6月)
総合展示室 172,231人 特別展示室 115,230人 はっけん広場 40,440人

森のチャレンがニュース 第4号

発行日：2016年7月29日

編集・発行：北海道博物館

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

Tel. (011) 898-0456 Fax. (011) 898-2657

ウェブサイト <http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>

©Hokkaido Museum, 2016